

## CSE Council of Science Editors 2023 Annual Conference April 29 – May 2, 2023

## in Toronto

2023年4月30日～5月2日、科学編集者会議(CSE: Council of Science Editors)のAnnual Conferenceが4年ぶりにカナダのトロントにて現地開催され、杏林舎から2名のスタッフが参加しました。

10年ほど前から毎年参加していたCSEですが、コロナウィルスによるパンデミックの影響から2019年のアメリカ・オハイオ州コロンバスでの現地開催を最後に中止、そしてオンラインのみの開催となっていました。しかし今年からは様々な旅行規制などが解除されたことからオンライン配信無し、100%現地開催となったため4年ぶりの参加です。

カナダ最大の都市、トロントは5月上

あることやその内容への責任を負えないこと、また何よりもICMJEの記す著者の条件(Authorship requirement)を満たさないことから、著者として含める事は相応しくない等の解説が行われました。

しかし、このようなAIの開発スピードの速さ、利便性の向上、普及のスピード等を鑑みると、著者がAIチャットボットを利用する事について、現状では既に利用を制限、または禁止する事は不可能であ

旬でも最高気温が9-10度と日本と比べても非常に寒く、また滞在中はずっと冷たい雨が降っていましたがCSEの会場内は4年ぶりという事もあり、活気にあふれていました。また我々も2020年以降、ずっとオンラインのみで打合せをしていた海外の事業パートナー達と、久しぶりに対面で打合せする事ができ、幅広い分野に渡って情報交換を行いました。

今回のCSEでは、4年間のブランクを取り戻すかの様に、過去に話題になった学術出版に関連するトピックの振り返りに加えて、新たなトピックについて発表や議論がありましたので、その中から特に興味深いものをいくつか紹介します。

り、今後は学術出版市場における利用頻度は一段と増加するであろうとの観測が出ています。しかし、利用を野放しにすることは研究・出版倫理的な不正や問題を助長する可能性があるだけでなく、科学の厳密性や著作権侵害等も引き起こすため、学術出版界としての規制が必要であるとの意見に参加者は同意していました。

既に大手出版社や杏林舎がマネジメントするジャーナルでは、先述のWAMEやCOPEのガイドラインに基づいて、AIチャットボットを著者として記載した論文の投稿を受け付けない旨を投稿規程に明示しています。しかしこれだけでは不十分であり、今後はICMJE等のガイドラインで利用の目的、範囲やその旨の開示方法などについて明文化する必要がある、との議論に参加者は大きくうなずいていました。(後述「ICMJEの2023改訂」に記載のとおり、日本時間2023年5月18日に改訂があり、AI技術の利用に関する項目が追加されています。)

また、今後の課題と

### 学術論文におけるAI利用について

ChatGPTを始めとしたLarge Language Model (LLM)を活用した人工知能チャットボットの学術論文における利用について発表がありました。有名なのはChatGPTですが、それ以外にも数多くの同様のプログラム開発が進んでおり、現在IT産業においては断トツで投資・開発・参加者が増加している分野であり、大小を問わず様々なIT関連企業が開発を急いでいます。

学術出版の世界においても昨年からChat GPTを正式に著者として記載され

して挙がっていたのは論文執筆だけではなく、論文査読においても今後(または既に)利用される可能性が高いのではないか?という懸念です。これについては査読内容の信ぴょう性や科学的質の担保に大きく影響する可能性が高く、著者の利用よりもはるかに利用に対する規制が必要だ、との意見も出ていました。また論文をAIチャットボットにかけること自体が、査読における論文掲載内容の機密

ていた論文の投稿が多数のジャーナルで確認されており、またその数は増加している、と報告がありました。このような状況に対応すべく、杏林舎が編集事務マネジメントを提供する全ジャーナルでも準拠している出版倫理委員会(Committee on Publication Ethics: COPE)や世界医学雑誌編集者協会(World Association of Medical Editors: WAME)が2023年1月に発表した声明の内容について、ChatGPT等のAIチャットボットが作り出した文章に対する内容の保証が不明確で

性を侵害することになるため、このような査読を規制する必要がある、より一層、規制を求める意見が多く出ていました。

AIチャットボットの利用については、杏林舎の学術出版におけるトレンドや情報収集の一環として、独自のあらゆる国際ネットワークを駆使し、動向やガイドラインの発表に関する情報に注視し、必要に応じて迅速にジャーナル運営への反映が出来る様、継続して努めてまいります。

### 編集事務局の役割とは?

杏林舎でも受託している編集事務局の業務は、日々の投稿受付、編集委員・編集委員長への報告や資料作成に追われ、本来の役割を見失ってしまいがちです。今おこなっている作業が何のためのものか、なぜ必要なのかが、いつの間にか考えられない状況になってしまっていることも少なくありません。今回参加したCSEでは編集事務局の重要な役割とは何

かについて議論がされました。より俯瞰的な視点で話し合われましたので、編集事務局の役割をあらためて整理して理解することができました。

編集事務局の主な役割は、4つに大別することができます。

#### 1. 雑誌の方針を的確に理解し実務に落とし込む

雑誌方針を体現する投稿規程は国際基



準に則っているだけでなく、その規程が掲載論文に的確に反映されることが不可欠です。編集事務局は雑誌の方針に則って投稿規程を論文に反映させる実務を担います。そのためには、投稿規程に沿うチェックリストや手順書(マニュアル)を整備し、これらを常に最新の状態にアップデートし続けることが重要です。

## 2. リサーチ・インテグリティ(研究の誠実さ)を編集事務局の立場から実現する

リサーチ・インテグリティとは、研究方法と研究結果に対して、他者から信頼と信用を得られるような方法で研究を実施することです。編集事務局では、オーサーシップ、データの信頼性、剽窃や疑わしい研究行動を捕捉できる仕組みづくりをすることで、ジャーナル掲載論文のリサーチ・インテグリティの実現をサポートしなければなりません。

## 3. ステークホルダーの管理

雑誌運営には、編集委員長をはじめとして編集委員、アドバイザーボード、著者、査読者、出版社や学会など、様々な利害関係者がいます。ステークホルダーとの関係は一部のステークホルダーに偏重するのではなく、すべてのステークホルダーとの間で適切なものにならなければなりません。定例ミーティングや編集委員会、報告書などを活用して関係を深め、業務分担の範囲を明確に取り決めることで、不要な衝突を事前に避けることができます。海外の多くのジャーナルでは、編集委員長と学会(編集)事務局の間で業務範囲を明確にする契約書を取り

交わすなどしています。

## 4. ジャーナルの今を表すレポートの作成と報告

日々の査読プロセスに関わっている編集事務局には、様々な情報が集まってきます。これを定期的にレポートにまとめて報告・共有することは、単に投稿査読状況を振り返るためだけにとどまらず、前述1~3の取り組みを定期的に評価し、ジャーナル運営改善に役立てるための材料としても、非常に重要です。これらは、レポートの目的を明確にし、冗長なレポートを避け、必要にして十分な内

容で作成される必要があります。S1Mをはじめとする投稿査読システムの多くは便利なレポート機能をもっています。これらをうまく活用すれば、無駄のない目的にあった効果的なレポート作成ができます。

ジャーナル方針を実際の運営に反映させ、しっかりとしたチェック体制のもとに不正を未然に防ぐことができれば、ジャーナルの質はおのずと高まっていきます。また、利害関係者間の衝突を未然に防ぐことができれば、より円滑なジャーナル運営を実現することができます。加

えて定期的なレポートとして編集委員へ現状を報告・共有することで、ジャーナル改善の取り組みを持続させることにつながります。

上記以外にも編集事務局の役割として、災害対策の重要性についても話し合われましたが、これは別の機会にご報告させていただきます。

杏林舎では、これら4つの重要な役割のいずれについてもサポートが可能なコンサルティングプランをご用意しています。編集事務局運営でのモヤモヤがございましたら、お気軽にお声掛けください。

# ICMJEの2023年改訂

上記 CSE の報告にもあったとおり、COPE や WAME の AI 生成技術の利用に関する声明に続いて、2023 年 5 月 18 日に ICMJE の改訂が発表されました。

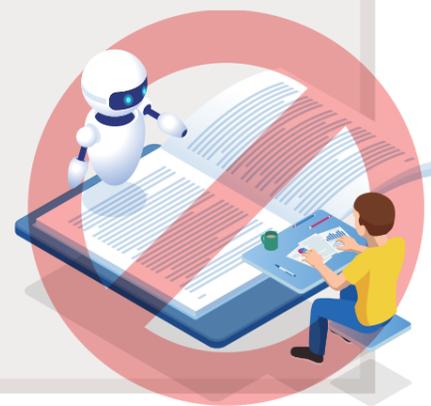
主な内容としては、COPE や WAME と同様、AI 生成技術を著者として認める事は出来ない事や、論文の執筆時や研究課程においてそれらの技術を使った場合の使用方法の開示等に関する項目の追加です。

それ以外にも注目すべき点は「査読者は秘匿性が担保されない限り、査読論文をソフトウェアや AI 技術にアップロードしてはならない」と記載があります。これが意味する事は、出版前の論文を AI にアップロードすることで、論文の内容が AI の学習機能に取り込まれてしまい、その情報が別の検索機会に活用されていくこととなります。よって、この様な行為は学術出版における機密保持の侵害に繋がり、医学出版倫理上、倫理違反となりますので査読過程での利用は避けるべきです。やむを得ず査読の過程で AI 技術を用いた場合には、査読者

## 論文執筆時の AI 利用は“要注意”

はジャーナルに対してどのように使用したか開示しなければなりません。

また、なんらかの理由によって利用する場合、利用者は AI 生成技術が不正確、不完全でバイアスのかかった情報を正式な情報のようにアウトプットすることを理解している必要があります。これらの機能は非常に便利な機能ですが、使い方を間違えると知らぬ間に情報漏洩に加担する事になりかねません。その他にも今回の改訂では、ジェンダーに関する項目など重要な改訂が多くあったため、投稿規程や査読ガイドラインの見直しが必要なタイミングですね。



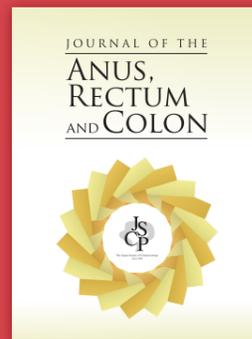
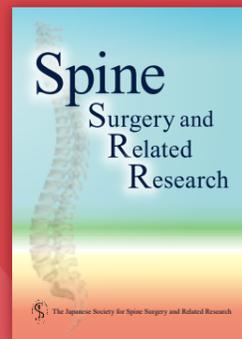
# ジャーナル・インパクト・ファクター 2 誌取得!

杏林舎が創刊準備からサポートしている 2 ジャーナル、日本脊椎脊髄病学会が発行する Spine Surgery and Related Research (SSRR) と日本大腸肛門病学会が発行する Journal of the Anus, Rectum, and Colon (JARC) がジャーナル・インパクト・ファクター (JIF) を今年、新たに取得しました。両誌は 2017 年の創刊から 6 年で JIF の取得を実現しました。

この 2 誌は創刊準備段階から杏林舎がコンサルティングを行い、当初から JIF の取得を視野に入れ、ジャーナルの国際化と質の向上に向けた戦略を提案してまいりました。また創刊後もその戦略に基づいて、編集事務局として国際基準の準拠や運営アドバイスをこなしています。

今回の S1M News では今回 JIF を取得されたジャーナルの前 EIC と現 EIC へのインタビューを掲載する予定です。是非お楽しみにしてください。

杏林舎ではジャーナル創刊や運営に関するコンサルティングに加えて、ESCI をはじめとする DOAJ や PMC 等の各種国際データベースへの申請に関するコンサルティングを提供しています。ご興味のある方は [jmk@kyorin.co.jp](mailto:jmk@kyorin.co.jp) までお問い合わせください。



## 編集後記

今号は4年ぶりに現地開催されたCSE 2023に弊社スタッフが参加しましたので、そこで得た情報をご紹介します。学術論文におけるAI利用については、著者・査読者などの作業負担を軽減させる利点がある一方で、AI利用が意図的ではないしる論文執筆や審査の不正につながる可能性もあるようです。各団体から見解が出されたことで、不正の蔓延には一定の歯止めがかけられましたが、急速に進む技術開発に利用者側のルールを対応させていく作業は続くと思いますので、弊社でもAI利用の動向を今後も注視していきたいと思っております。

また、弊社でご提供を開始しましたeラーニングシステム「KaLibEL」は、少しずつご利用学協会様が増えている状況で、以前に他システムをご利用されていた学協会様にもその利便性にご満足をいただいておりますので、eラーニングシステムの利用をご検討されていらっしゃる場合にはお気軽にお声がけください。

次号では、インパクトファクターを取得されたジャーナルのインタビュー記事の掲載を予定しておりますので楽しみに。

## S1M NEWS

2023年8月30日発行 第23号

発行

株式会社 杏林舎  
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10  
Tel.03-3910-4311 Fax.03-3949-0230  
URL <https://www.kyorin.co.jp>

編集・制作・デザイン  
E-mail

株式会社 杏林舎  
s1mnl@kyorin.co.jp

## KaLibEL eラーニングシステム KaLibEL (カリベル) の機能紹介

第1回

専門医等の資格に関する単位付与や会員の知識向上にオンライン講習を活用することが一般的になってきました。弊社では学協会様が安心してご利用いただけるeラーニングシステム「KaLibEL (カリベル)」をご提供しております。単位認定の講習会やセミナーの実施に最適なKaLibELについて、今号よりその魅力を定期的にご紹介いたします。第1回となる今回は、eラーニングを主催される学協会様へのオススメ機能をご紹介します。

### ① 充実した管理機能

管理画面では、登録された受講者情報の検索と代理操作ができます。一覧画面では、受講者ごとの動画の視聴状況・テストの合格状況も確認が可能です。また、eラーニング用のコンテンツ(動画やテスト問題)の登録・編集・差し替えも学協会側の操作で自由に行うことができます。



KaLibELは、各種情報の一元管理と管理画面の充実した機能により、安心かつ円滑なeラーニング運営を可能にします。学協会のご担当者様にとって「あったら便利」な機能が揃ったKaLibELにご興味を持たれましたら、[kalibel\\_pr@kyorin.co.jp](mailto:kalibel_pr@kyorin.co.jp)までお気軽にご連絡ください。